

技術・家庭科（家庭分野） 学習指導案

日 時 平成28年5月19日（木） 第2校時

対 象 2年5組（男子20名女子20名 計40名）

指導者 教諭 山口 隼 人

1 内容および題材名 C 衣生活・住生活と自立「住居の機能と住まい方」

2 題材設定の理由

住まいは人間にとって生活の拠点であり、そこで生活する家族の心身を守り育む場でもある。そのため、家族一人ひとりにとって安全で安心かつ快適な空間であり続けることが求められる。近年、東日本大震災などの自然災害により、住まいに対する安全・安心への関心は高まっている。また、少子高齢化による社会の変化もめまぐるしく、住居の機能と住まい方については身近な問題として考えていかなければならない。

本題材で取り上げた「住居の機能と住まい方」では、自分や家族の住空間に関心をもち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。

生徒の住宅事情は多様であり、個人差が大きい。また、衣・食生活に比べ、住生活を学習することのイメージがつきにくい。中学生段階における住生活の学習では、「安全」「快適」というキーワードがあげられる。住まいが衣食住と同じように、生きる上で不可欠なものであることを理解し、住まいを簡単に変えることはできないが、住まい方を工夫することでより安全で快適に生活していくことができることを理解させることが大切である。近日、起こった熊本地震を踏まえ、震災を教訓とし、安全・安心な住まい方について考えさせるとともに、快適な住まい方についても考えを深めさせ、家族の一員としてどのような役割を果たしていくべきかを考えさせ、実践につなげさせることが重要であると考える。

指導に当たっては、小学校の内容（暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点を置いた快適な室内環境の整え方）との体系化を図り、学習のイメージがつきにくい住生活の学習に対しては、模型教材の導入とICTの活用を行った。模型教材を導入することで、実際の場面の想定につなげ自分の住まいと関連して考えられるように、ICTを活用することで、自分の考えにとどまらずグループや全体で意見を共有し、より考えを深めさせる場面を設定した。また、指導計画では、生徒の興味・関心等に応じて選択して履修させる生活の課題と実践を有効に活用し、自分や家族の住生活をさらに豊かにするための工夫を考える場面を設定し、住生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てることにつなげた。授業設計や発問計画では、生徒が各教科や各分野・内容でこれまでに習得した知識や技術、経験をもとに、問題意識をほりおこし、家庭と社会とのつながりや技術と社会・環境とのかかわりの中から課題を見いだすことができるよう「システム思考」を取り入れた。

以上のことから、実践的・体験的な学習活動を充実させながら、住居の機能と住まい方について考えを深めさせるとともに、システム思考を活用して創造的な学びを充実させ、進んで生活を工夫し、

創造する能力と実践的な態度を育成できるように本題材を設定した。

3 題材の指導目標

- (1) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組ませ、住生活をよりよくしようとする態度を育てる。
- (2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付けさせ、その解決を目指して工夫させる。
- (3) 住居の機能について理解させ、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。

4 題材の評価規準と指導計画(C 衣生活・住生活と自立「住居の機能と住まい方」全7時間)

(1) 題材の評価規準

ア 生活や技術への関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての知識や理解
① 自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 ② 安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。	① 室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。	/	① 住居の基本的な機能について理解している。 ② 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。

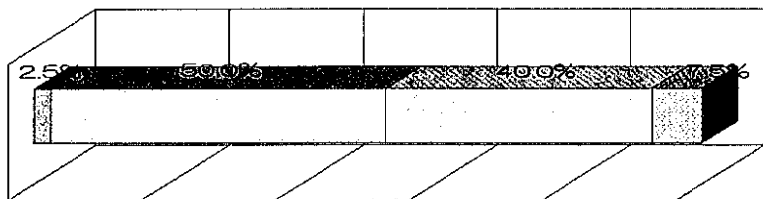
(2) 題材の指導計画

学習内容	時数	主な指導内容	評価規準
1 快適に住まう (1) 住まいのはたらき ① 住まいのさまざまな役割 ② 共に住まう	2 ① ①	○ 住まいの基本的なはたらきを理解させ、住まいに必要な空間と役割を知らせる。 ○ 住まいの空間と家族の生活行為とのかかわりについて考えさせる。	ア-① イ-①
(2) 安全な住まい ① 住まいの安全対策 ② 災害への備え	2 ① ①	○ 家庭内事故の種類とその原因を理解させる。 ○ 安全な住まい方を考えさせたり、非常時の備えとして必要なものを考えさせたりする。	ア-② イ-① ウ-②
(3) 快適な住まい ① 室内の空気調節 ② 住まいと音	2 ① ①	○ 室内の空気が汚れる原因を知らせ、健康に配慮した住まい方を考えさせる。 ○ 生活騒音の種類と問題点を理解させ、適切な防音対策を工夫させる。	ア-② イ-① ウ-②
(4) 住生活の自立に向けて	1 本時	○ 模型教材を使い、これまでの学習を総括させながら、安全かつ快適な室内環境について工夫させる。	ア-② イ-① ウ-②

本題材終了後、生活の課題と実践へとつなげる。次時では本題材で学んだことを基に、自らの生活で実践するためには何が必要かを考えさせ、計画を立てさせ、夏休み課題での実践へとつなげさせる。夏休み後に実践報告会を行う。

5 生徒の実態 (事前アンケートより) 平成28年4月15日実施 2年5組 実施人数40名

(1) 住生活に関する学習に関心がありますか。



- ある
- どちらかといえばある
- どちらかといえばない
- ない

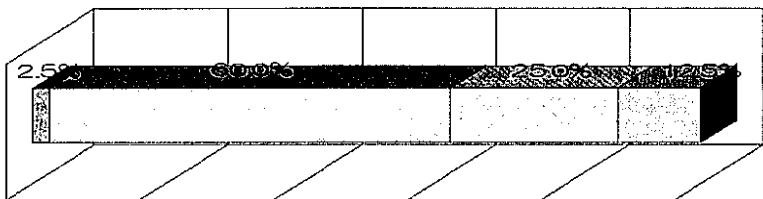
(2) 住生活に関する学習で関心がある項目は何ですか。(自由記述)

- ・ 安全に関する記述 … 7名
- ・ 間取りに関する記述 … 6名
- ・ 世界の住まいに関する記述 … 3名
- ・ 無回答 … 11名
- ・ 整理整頓・掃除に関する記述 … 7名
- ・ 快適な住まい方に関する記述 … 4名
- ・ インテリアに関する記述 … 2名

(3) 住まうことに関して、大切だと思うことはどのようなことですか。(自由記述)

- ・ 安全に関する記述 … 20名
- ・ 環境に関する記述 … 5名
- ・ 無回答 … 7名
- ・ 快適な住まい方に関する記述 … 10名
- ・ 整理整頓・掃除に関する記述 … 3名

(4) 災害時に備えて具体的な準備を行っていますか。

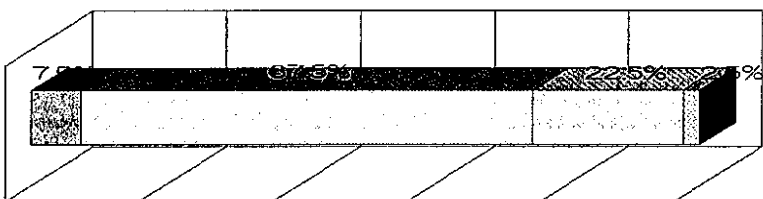


- している
- どちらかといえばそうしている
- どちらかといえばそうしていない
- していない

(5) 具体的にどのような工夫を行っていますか。(選択複数回答)

- ・ 家族間での災害時の行動を決めている … 18名
- ・ 保険に加入している … 14名
- ・ 家具の転倒防止や固定をしている … 12名
- ・ わからない … 5名
- ・ 非常時の持ち出し品を決めている … 16名
- ・ 非常食や水を用意している … 13名
- ・ 災害時の避難経路を決めている … 10名
- ・ 特に何もしていない … 6名

(6) 快適に住まうための工夫を行っていますか。



- している
- どちらかといえばそうしている
- どちらかといえばそうしていない
- していない

(7) 具体的にどのような工夫を行っていますか。

- | | | | |
|---------------------|------|---------------|------|
| ・ 整理整頓・掃除に関する記述 | …11名 | ・ 換気・通風に関する記述 | …8名 |
| ・ 季節に合わせた住まい方に関する記述 | …5名 | ・ 騒音に関する記述 | …1名 |
| ・ インテリアに関する記述 | …1名 | ・ 無回答 | …14名 |

(考察)

アンケートの結果を見ると、住生活の学習に関心が「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒は52.5%と約半数だった。生徒にとっては衣生活や食生活に関する学習と比べ、イメージのつきにくい学習内容のようである。

一方で、「住生活に関する学習で関心がある項目は何ですか」という問いに対しては、安全に関する記述や整理整頓・掃除に関する記述が比較的多く見られた。更に、「住まうことに関して、大切だと思うことはどのようなことですか」という問いに対しても安全に関する記述が20名と多く見られ、東日本大震災や近日に起こった熊本地震などの影響から、住まいについての安全に関する意識は比較的高くなっている様子が見られた。しかし、「災害時に備えて具体的な準備を行っていますか」という問いに対しては、「している」と答えた生徒はわずかに2.5%しかおらず、「どちらかといえばしている」と答えた生徒と合わせても、62.5%にとどまった。具体的な工夫についても、「わからない」「特に何もしていない」と答えた生徒が11名見られ、安全で安心な住まい方について考えさせ、実践させていくことの必要性を感じる。

また、「快適に住まうためにどのような工夫を行っていますか」という問いに対しては「無回答」が14名おり、具体的な記述があまり見られなかった。

指導に当たっては、模型教材やICTの活用を行い、災害時に備えた住まい方の工夫を考えるとともに、小学校の内容との体系化を図り、住生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てたい。

6 本時の実際

(1) 主 題 住生活の自立に向けて

(2) 指導目標

安全な住まい方に関心をもたせ、災害に備えた住まい方の工夫を行う記述の大切さに気付かせるとともに、より快適に住まうための工夫についても考えさせる。

(3) 目標行動

住生活をよりよくしていこうとする態度をもち、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方を説明する記述ができる。

(4) 評価規準

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識や理解
評価規準	安全で快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。	室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。		安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
す 概 べき ね 姿 達 成	模型教材を使って家具の配置等を考えながら、安全で快適な住まい方について、改善策を見いだそうとしている。	模型教材を使って家具の配置等を考えながら、安全で快適な住まい方について、改善策を見いだしている。		安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について説明できる。

(5) ICE ルーブリック

I	C	E
安全な室内環境を理解しつつ、快適に過ごすための室内環境の要素について知っている。	安全で快適な室内環境を整えるために必要な要素を考え、自分の生活と照らし合わせながら選択し、説明できる。	安全で快適な室内環境を整えるために必要な要素を考え、自分の生活と照らし合わせながら選択し、実践している。

(6) 授業設計の視点


ア 能動的に課題を発見させる学習過程の工夫

能動的に課題を発見させる学習の工夫としては、①教材・教具の充実、②授業計画の工夫を行った。具体的には、①については、学習のイメージがつきにくい住生活の学習に対して、模型教材を作成し、実際に配置や体験をさせることで実生活の場面につなげ、自分の住まいと関連して考えられるようにした。②については、小学校の学習内容との体系化、生活の課題と実践を有効的に活用し、各教科や各分野で習得した知識や技術をもとに、家庭と社会とのつながりや技術と社会・環境とのかかわりの中から問題意識をほりおこし、課題を見いだすことができるよう配慮した。授業では、これまでの問題解決的な学習過程に、「問題のほりおこし」の場面を加え、課題設定までの時間短縮を図るとともに、次時までには本時の授業で学んだことを家庭生活で実践するように配慮した。

イ 「創造的な学び」を見取るためのICEモデルの活用

「創造的な学び」を見取るための工夫としては、ICEモデルの活用を行った。システム思考の構造を用いたワークシートとICEモデルのルーブリックを作成し、それぞれを対応させることにより、「創造的な学び」を見取ることができるように配慮した。各題材や各授業の導入の際に、教師と生徒でルーブリックを共有することで、形成的な評価を行い、創造的な学びを展開するための評価の工夫を行った。また、生徒同士でルーブリックを共有することで、どの思考段階で議論しているのか明確にでき、学習している内容やその成果を、互いに認め合ったり励まし合ったりしながら能動的に学習を進めることができるようにした。授業導入時にルーブリックを提示することにより、生徒に具体的なゴールやプロセスを見据えさせることができ、能動的に最適な解決策を導き出すことができるよう配慮した。

(7) 本時の流れ

段階	学習の流れ	時間	学習活動	指導上の留意点	教具・資料
導入	はじめ 前時の振り返り 1	5	1 前時を振り返り課題を確認する。	1 前時の学習を振り返らせ、前時に発見した課題を共有させる。	1 ワークシート
	わかったか 2 補 3		2 振り返ったことを発表する。	2 課題について、前時から本時にかけて、生活の中で気付いたことがあれば発表させる。 3 生徒の発言から本時の学習課題を共有させる。 (1)-ア	3 ワークシート
	学習課題の共有 4		4 学習課題を共有する。		
自己追究	ループリックの確認 5	5	5 ICEループリックを確認する。	安全で快適に住まうためにはどのような工夫ができるだろうか。 5 冰山モデルを見せて、本時にめざすべき姿を具体化し、全員に共有させる。 (2)	5 冰山モデル 
	災害に備えた住まいの工夫 6		6 提示された部屋の問題点を考え、災害に備えた住まい方の対策を考える。 自分の目、プラス目、マイナス目、待望による家と、待望のずら	6 模型教材を使い、家具の配置を行わせ、安全な家具の配置について考えさせる。 良い所、悪い所はどこだろうか？ 避難後はどうなるのか？	6 ワークシート 模型教材
	わかったか 7 補 8		7 気付いたことを発表し、全体で共有する。	8 ハード面での対策だけではなく、ソフト面（家族・地域での対策）の重要性についても考えさせる。 (1)-イ	
展開	快適に住まうための工夫 9	33	9 快適に住まうための工夫を考える。 待望による家と、待望のずら	9 6で考えた工夫に加え、より快適に住まうための工夫を考えさせる。 季節が変わればどうなるのか？ 5年後、10年後はどうなるのか？	9 ワークシート 模型教材
	わかったか 10 補 11		10 気付いたことを発表し、全体で共有する。	11 他者の考えにより深まった考えに対しては青色で追記させる。 (1)-イ	10 ワークシート 模型教材
	よりよく住まうための工夫 12		12 安全性と快適性の視点から、自分の生活にあった適切な工夫を考え解決策を探る。 大事なポイント、最重要ポイント	12 関連性や相互依存をもとに課題解決のための重要なポイントをおさえて、説明できるようにさせる。 安全性と快適性のバランスは？ 何をどう見直したら、最も効果的か？ (1)-イ	12 ワークシート 模型教材
自己解決	わかったか 13 補 14	7	13 システム思考によって深めた『重要ポイント』を発表し、学級全体で共有する。 深めたものの見方	14 深めた考えに対して、更に見方を変えることによって、想定外のこと起こり得たりはしないかを考えさせる。	
	まとめ 15		15 本時のまとめを行い、安全で快適な住まい方の視点を確認する。	15 様々な視点や創造的な考えを含めながら、本時のまとめをさせる。 家庭内の事故の防ぎ方や自然災害への備え、室内の空気調節、音と生活とのかわりなど室内環境を快適に整えることが重要である。	15 ワークシート
	次時の課題設定 16		16 本時の学習をもとに次時の学習課題を設定する。	16 生徒の発言から学習課題を設定し、次時までの時間に情報の収集や処理ができるように促す。 (1)-ア	16 ワークシート
終末	おわり		自分の住生活を見直し、課題を見つけて計画し、実践、評価、改善を行うためにはどうすればよいだろうか。		